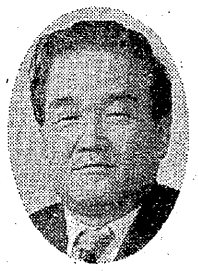
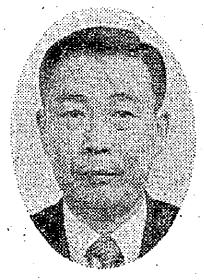
83政治決戦に向けて前進しよう

熊本県議候補（推薦）
酒井 善為



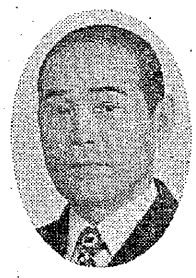
大正十二年生れ、五十九歳。熊本法律専門学校卒。三池労組三川支部青年部長、文教部長、三川支部長を歴任。昭和三十年県議当選以来七選。現在日本社会党熊本県本部顧問。住所は荒尾市八幡台三丁目十五の一番地。

荒尾市議候補（公認）
百田 悟



昭和七年生れ、四十九歳。三池労組中央委員、地域分会長、四山支部副部長、四山指導部長を歴任。昭和五十四年市議当選、総務委員。現在日本社会党荒尾総支部書記長。住所は荒尾市大島社宅二十二棟。

荒尾市議候補（公認）
坂本 敏雄



昭和四年生れ、五十三歳。三池労組中央委員、地域分会長、三川支部教宣部長を歴任。昭和三十四年市議当選以来六選。建設委員、議会運営副委員長。住所は荒尾市中央区東十七班の二。

荒尾市議候補（公認）
前川 哲也

昭和十五年生れ、四十二歳。福岡県立大牟田南高校卒。三池労組青婦部役員、中央委員、地域分会長、本部書記次長を歴任。現在職場分会長、地域分会長。日本社会党荒尾総支部教宣部長。住所は荒尾市緑ケ丘小鳩町三十五棟。

荒尾市議候補（推薦）
民本 清喜

大正九年生れ、六十一歳。三池労組中央委員、執行委員を歴任。昭和五十年市議当選以来二選。建設委員、公害対策特別委員。現在日本社会党荒尾総支部政審部長。住所は、荒尾市唐池二二四八の十八。

荒尾市議候補（推薦）
福川 次郎

大正二年生れ、六十八歳。三池労組中央委員、本所支部議長、地域分会長を歴任。昭和三十年市議当選以来七選。現在公害対策委員長。日本社会党荒尾総支部委員長。住所は荒尾市桜山町三丁目二の四。

荒尾市議候補（推薦）
蒲池 哲夫

昭和十五年生れ、四十二歳。熊本大学教育学部卒。熊教組執行委員、荒尾支部長、荒尾地評事務局長、会長を歴任。昭和四十六年市議当選以来三選。現在休日診療所運営委員。住所は荒尾市蔡屋一四二五番地の三。

荒尾市議候補（推薦）
吉田 和男

昭和六年生れ、五十歳。熊本大学法律学部卒。三池労組青婦部四山支部長、書記長、中央委員、四山支部労働部長、本部書記長を歴任。現在一小校区協議会会長。住所は荒尾市大平町三丁目十三番地。

来年の統一地方選挙にむけて三池労組では四月二十七日の委員会で、熊本県と荒尾市の公認・推薦候補を確認しました。すでに五月十六日号で紹介いたしましたが、各候補者の写真と経歴が届けられましたのであらためて紹介し、ともに勝利のために奮闘しましょう。

集会と催し

反核・反戦集会

熊本県下の反核・反戦の日の統一行動として行われます。

とき　六月二十三日
　　午後五時半
ところ　荒尾駅前広場

集会終了後、デモ行進が行われます。

福岡県知事公舎の監査請求受任者集会

とき　六月二十三日
　　午後五時半
ところ　労働福祉会館

荒尾地区よろず相談

とき　七月十一日（日）午前十一時～午後三時
ところ　法律相談＝労働金庫二階ホール
　　労働相談＝労働会館二階広間

【吉田哲郎さん最後の写真。災害の時はカメラの中にあった】

保安を唱えても「生産」には勝てず

緑が濃くなる六月十一日は哲ちゃんはじめ六人の方々の命日である。

その日、私は、昇坑後坑口でそのことを知り、サーッと冷水を浴びた感じになったのを記憶している。電気の仲間たちほとんどが無事を祈って坑口に詰めていた。みんな無口で、坑内からの計報に悲しみをこらえ、折りからの雨に濡れながら仲間の遺体を迎えたのだ。

遺体の名を呼び、誰もが泣いた。

あれから一年、職場の状態は決して良くなったとはいえない、むしろ悪い方へ傾斜しているといえる。

口では保安を唱えていても、至上命令の『生産』には勝てず、またぞろ災害を呼ぶのである。

炭鉱と落盤の因果関係は百も承知のはずなのに、いまだに落盤での大災害が起こされているのだ。

夕張新鉱の大災害も例外ではない。ホテルニュージャパン、日航、バラウニ号等々の大災害のいずれをみても、人間の尊厳の上に生産性が大きくのしかかっているのだ。災害後の会社幹部の白じらしい弔辞を今後は繰り返えさせてはならないのだ。（H）

今は亡き友

五十六年六月十一日、夕方から惨災した友を偲った、あの日の情景が今も鮮かに甦ってくる。

鉱山学校の同級生であり、本紙にマンガを描いていた、吉田哲ちゃん。

いつも面白い話しで仲間を笑わせ『俺は、三度死にそこなったから、もう絶対に死なん』といっていた米田マンちゃん。

保安係員になったばかりで、生まれて間もない赤ちゃんが、可愛いくてたまらず、毎日、風呂から飛び出すようにして帰りを急いでいた村上しゃん。今は、もう三人ともいない……。

一周忌を迎えた今、会社は重量物吊り上げ対策を保安重点項目にしているが、あの災害の原因は決して、PC吊り上げが主な原因ではないのだ。

断層個所を避けていたなら、十分な断層対策が実施されていたなら、あの大落盤はおきなかったのだ、六人は殺されずにすんだのだ。

危険な条件の中で、無理な交替時間でのPC据付け作業をさせながら、現場労働者に災害責任をおしつける会社。

人員不足、労働強化、働く者は保安への配慮する余裕さえなくなっている。あの大災害を保安確立の新たな道標に、今は亡き六人の仲間の冥福を祈っている。（M）

亡き友をしのぶ

十八分会（三川）　原田 久男

わが家の棚の　一隅に
ボトルシップが　置いてある
ボトルシップを見るたびに
今は亡き友　思い出す

暗いしじまの坑内で
キャップランプの輪の中に
木片けづり帆船の
船体きざむ彼が居た

三本マストの帆船は
夢と希望と友情の
風をいっぱいはらませて

海原向けてスタンバイ
五百トンもの岩石は
仲間の身体を押しつぶし
夢も希望もうばいさり
今は返らぬ人となる

ボトルシップを見るたびに
友の笑顔が目にうかぶ
ボトルシップを見るたびに
怒りが静かにこみあげる
怒りが静かにこみあげる

なかま

五分会（四山）
梅崎 孝平 さん

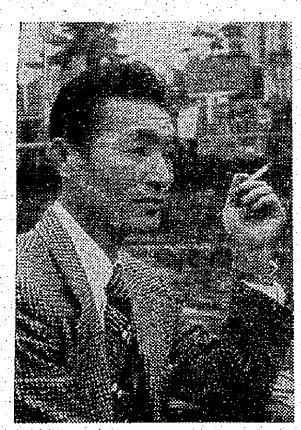
▼…三池闘争が終ったあと、それまで十五年近く働いていた本所建設部から、強制的に四山鉱の坑内に配転された。「話には聞いていたが、坑内ちゅう所は本当に大変な所でした。仕事に不馴れというだけならともかく、当時の会社の激しい差別支配の攻撃に必死で闘いました」と、当時を語る。

▼…職場の仲間からは「梅ちゃん」の愛称で呼ばれる。そして奥さんも認める「一本気」で有名？　良い、悪い、好き、嫌いなど竹を割ったような一徹さを持っている。職場の集まりへの参加は、ほぼ百パーセント。「組織人として当たり前」というが、諸集会への結集が問題になっているだけに、あらためて共感を呼ぶ。

▼…新労組の若い人たちにも〝慕われ〟ていることからも、一見とっつきにくそうだが、面倒見の良さ、そして相手の立場を考える人でもある。

楽しみは「仕事から帰ってからの一杯！」。彼が酒を飲む姿は実にうまそうである。

奥さんは永年主婦会活動の先頭に立ってこられた人。大阪の孫からの電話で「オジイチャン」の声が楽しみだというが、このときはふだん若々しい梅ちゃんが、ちょっぴり年をとって見える。（森のぼる・記）



梅崎さんは大牟田市臼井社宅71棟で奥さん（遊久子さん）と長男の三人ぐらし。長女は大阪へ嫁いでいる。

【短信】

総理府の世論調査によると「日本が戦争にまき込まれる危険」を感じている人が六十％もいる。四年前の四四％に比べて不安は大きく広がっている。中でも、若い世代の不安感が強い。その不安を、いまこそ声と行動に。【連合】